

令和3年度 総括評価表

徳島県立板野高等学校

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方針	
		評価指標と活動計画	評価			
生徒指導の充実	(全校レベル)	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) B (所見) (1)今未来手帳の使用状況は個人差・クラス差が見られるが、学習サイクルを身に付けさせるためには有効だった。 (2) 評価指数関連については、概ね達成できた。職員と生徒の心の交流を目指すなか、校門で挨拶を交わしたり、声を掛けることを全職員で取り組んだ結果、昨年度より挨拶や服装・頭髪等の基本的な生活習慣は少しずつ改善されてきた。 (3) 交通事故(被害者)に遭遇する場面もあったが、緊急時の学校や警察への連絡を促していく。 (4) 防災人材育成講座の他に、校内でも防災士育成に向けた取組が行われた結果、好成績を収めることができた。 (5) 生徒間の人間関係のトラブルやいじめ、非行等の問題解決においては、担任だけではなく、学年団、養護教諭、部活動顧問など全職員がそれぞれの立場から一致団結し、「チーム板野」として組織的に解決に当たることができた。さらに、スクールカウンセラーや中学校、地域、警察・教育委員会等の外部機関の協力が見られたことにより、問題が深刻化する前に解決できたこともあった。 (6) 年間を通じた生活指導、学習指導により、基本的な生活習慣の確立を図り、自主自立の精神の育成に取り組んだ。 (7) 学習記録やスケジュール管理を近未来手帳に記入する習慣と継続的な記録・蓄積を図ることを推奨した。 (8) 挨拶や身だしなみの指導を徹底し、学校生活全般が規律あるものになった。 (9) 美しい環境づくりを目指し、定期的なゴミの分別の習慣、清掃美化の徹底を図ることで清掃美化意識を高めることができた。 (10) 携帯電話安全教室、薬物乱用防止教室、SNS利用マナー教室は感染拡大防止のため中止。 (11) 遅刻カードの記入の徹底、家庭への連絡が確実にできた。遅刻回数が多い生徒は、保護者との面談を段階的に実施した。 (12) 登校時の職員による登校指導は、職員と生徒の心の交流に繋がっている。 (13) 一人一人の生徒を真に理解し、その健全な成長を援助するように努めた。 (14) 西部消防組合の指導による避難訓練はコロナウイルス感染拡大防止のため、実施できなかった。	学校関係者の意見 多方面にわたり、生徒をよりよくするための取組が実態に即した形で進められています。丁寧な細やかに、全教職員が具体的に取り組むことができています。 メモをとること及び1日の生活の振り返りをする習慣を身に付けさせることは、日々の生活の改善と将来の社会生活の充実・発展に向けた有効な方策と思う。 挨拶運動・清掃活動が活発なおかげで、挨拶・服装(身だしなみ)も、ほんとうよくなってきていると思います。 自転車登校の生徒は、交通事故に気をつけてほしい。 防災士育成に今後も尽力してほしい。 人間関係のトラブルやいじめ、非行等の問題に組織的に取り組んでいると思います。 学校評価では、教員の約8割が現状の生徒の服装・頭髪は不十分であると認識している。「頭髪・服装の乱れは非行の第一歩と捉え、ルールを守るという規範意識を高める指導の一環として徹底して行った。」事後指導において保護者や生徒とのトラブルが起きることもあったが、丁寧な説明を行うことで昨年度より減少した。 年間を通じた生活指導、学習指導により、基本的な生活習慣の確立を図り、自主自立の精神の育成に取り組んだ。 学校評価をみると、生徒や保護者の皆さんが「学校生活に満足している」ことが伝わってきます。教職員の皆さんの「声かけ・手間かけ・時間かけ」といった取組の成果だと思う。 人関係のトラブルにつながるSNS利用マナーについて考える機会を作ることが大切だと思います。 遅刻カード(授業遅刻も含む)への記入や、家庭への連絡を徹底していく。 心の悩みを気軽に相談できる体制が整っていると思います。 徳島県内の高校で最初に開始した歴史と実績を生かして改善に向けて対策を検討してほしい。	朝のあいさつ運動と合わせ、自転車の交通安全、歩行者の交通マナーを啓発する活動を今後も展開していく。 頭髪指導については、引き続き生徒・保護者・教員が情報を共有し、連絡を綿密に行う。流行の髪型の指導について、近隣校と連携をとりながら指導を行っている。 あらゆる場面を利用し、交通安全・マナーの再認識を図る。朝の登校指導を継続して行う。 防災士試験の受験者増と合格率がアップを目指す。 学期毎に、生徒アンケートを実施し、いじめなどの重大な案件を早期発見していきたい。 基本的な生活習慣や定期的な頭髪服装指導は、進路実現の根拠をなすものであることを生徒に理解させ、学年団を中心に学校全体で取り組んでいく。
	1) 承認することが始まる生徒指導	1)-1 職員の意識改革を進めるなかで、生徒の自己肯定感を高める指導、信頼関係を築いた生徒指導を行うことで、安定した学校運営を行うことができた。さらなる研修等を行うことでより高度な生徒指導を行うことができると考えられる。				
	2) 生徒指導は全員で	1)-2 生徒の可能性を信じ、成長を促す指導 今未来手帳の有効活用 2) 頭髪服装指導を定期的実施 再々指導3件以下				
	3) 基本的な生活習慣を身につけ、何事にも積極的に取り組む生徒の育成 C-2	3)-1 あいさつ・清掃の徹底(あいさつ運動・地域清掃) あいさつ運動毎日(平常授業時)実施 3)-2 交通ルールやマナーを守る。 自転車の警告数3件以下 3)-3 防災の知識を身につけさせる。 防災士2名合格				
	4) 日々のコミュニケーションの充実	4) 人間関係のトラブルはあったが、いじめとして認定する案件はなかった。その後の人間関係において距離感を上手にとる人間関係の作り方の指導をした。暴力行為については、相手を痛めつけることを意図した問題行動はなかった。				
	(下位組織レベル)	活動計画	活動計画の実施状況			
	① 授業、部活動等学校生活すべての場面で生活指導	①-1 生徒指導課を中心に、各学年団で定期的に頭髪服装指導を行い、事後指導も徹底して行う。 ①-2 授業の受け方(態度や課題提出等)などの入門講座を入学時に実施する。社会で通じる「聞く」「話す」等の態度や期日を守る態度を授業中に指導する。 ①-3 今未来手帳の利用法について1、2年でオリエンテーションを行う。学年集会等に持参させ、メモをとる習慣を身につけさせる。また日々の生活記録として手帳を使用し、家庭学習の定着を図る。 ①-4 すべての授業で挨拶や身だしなみを指導する。特に、体育の授業で集団行動の指導を徹底し、学校生活全般を規律あるものにする。 ①-5 定期的なゴミの分別や清掃状況のチェックを行い、清掃美化の徹底と校内環境の整備を行い、清掃美化意識を高める。美化チェックの達成率70%以上。 ①-6 外部機関と連携をして、携帯電話安全教室及び薬物乱用防止教室を実施して、SNS利用マナーと薬物の危険性について考える機会をつくる。				
	② 保護者、地域等との連絡強化	② 遅刻カード(授業遅刻も含む)への記入を徹底し、家庭への連絡を速やかにする。遅刻回数が多い生徒は、保護者と学年主任・管理職等との面談を実施する。	②-1 入学時のオリエンテーション、学年集会、HR活動において、高校における基本的な学習・生活態度について説明を行った。また、各教科授業においても本格的な指導に入る前に、説明を繰り返した。宿題等の提出物についても期日を守るよう、年間を通して指導した。 ②-2 入学時のオリエンテーション、学年集会、HR活動において、高校における基本的な学習・生活態度について説明を行った。また、各教科授業においても本格的な指導に入る前に、説明を繰り返した。宿題等の提出物についても期日を守るよう、年間を通して指導した。 ②-3 4月に1、2年で使用方法についてのオリエンテーションを実施した。集会ではノートを持参しメモをとるよう促した。また月の予定や日々の時間割、持ち物を記入したり、1日の行動の振り返りを記入、利用するよう推奨した。			
	③ 交通安全指導・挨拶運動の実施	③ 登校時、校門前で交通指導と挨拶運動を行う。	③ 職員による登校指導、生徒会・野球部員による挨拶運動は計画的に実施した。			
	④ 生徒の心身の健康	④ 心の悩みが聞ける雰囲気をつくる。睡眠や食生活の大切さを、養護教諭や体育・家庭科の教員、教育相談課員等で連絡を取りながら教える。	④ 毎日出欠黒板から出欠状況を把握し、養護教諭から保健室を利用する生徒の様子を聞き、担任や学年団で対応した。また、気になる生徒にはスクールカウンセラーとの面談を勧め、問題行動の未然防止に努めた。			
⑤ 防災教育の推進	⑤ 防災クラブを中心に、災害に向き合う知識を身に付け、日常的に命を守る手順を考えるられる生徒の育成に努める。	⑤ 西部消防組合の協力で防災(避難・消火)訓練を実施した。板野町の道の駅で防災施設を見学予定だったが、コロナウイルス感染拡大防止のため、中止となった。				
主体的、対話的で深い学びが得られる工夫された授業	(全校レベル)	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) B (所見) (1)電子黒板導入により、研究授業が多くなり、ICTスキルを身に付けるいい機会となった。 (2)各教科とも電子黒板を活用した基礎基本の定着を図る授業展開が授業に対する満足度に繋がった。 (3)進路ガイダンスで、仕事についてのやりがいや特色、傾向などの詳しい説明を聞いた。 (4)インターンシップは今年度は中止となったが、事前に調べ学習や心構えなど職業観の育成を図った。 (5)読書が学校教育を果す役割の重要性を考え、実施しているが、肯定的な意見が教員で47.5%、生徒で34.4%であり、改善点について、対策を検討していくことが必要。 (6)今後予想される学級閉鎖に向けて、オンライン授業がスムーズに実施できるよう、環境整備に取り組んでいく。 (7)コロナ禍のなか事業内容から再検討を要するものもあり、苦心した部分もあったが、評価指標関連については、概ね達成できたようである。特に1年生はこれまでの学習習慣や習熟度に差があるため、年度初めの授業で使用している「スマイル」は、生徒の学び直しと実態把握に効果があった。 (8)就職・進学共に必要に応じて個別の進路面談を実施した。	学校関係者の意見 ICT教育に熱心に取り組んでいることがよくわかりました。 非常に細かな視点・指導で学校運営がされていることがよくわかりました。一部個人差、クラス差が見られることと、理念・目的の共有は奥深く重要なことだと思っています。 学校評価の「授業と部活動を両立させ向上心を持って常に努力し続けている。」については、重要なことだと思っており、しっかり対応してほしい。 毎時間の授業における教員と生徒の研鑽の成果と思う。 1年生でのインターンシップでは将来を見据えた高校生活のよい指針となっていると感じます。 朝の読書は、生徒自らという気持ちを持ってほしい。 表現力や考える力等の向上など学力面での成果は見られたので、ただ読書をさせるだけでなく、フリートークやブックトークなど読書の楽しみ方の幅を広げる工夫をしてほしい。 徳島県内の高校で最初に開始した歴史と実績を生かして改善に向けて対策を検討してほしい。	生徒端末と電子黒板を活用した授業の確立に向け研修を重ねていく。 年間学習指導計画を見直し、学習達成目標を明確化し、分かりやすい授業を展開していくことにより、授業と部活動の両立に取り組んでいきたい。 生徒の進路意識高揚となるような進路ガイダンスを実施していく。 落ち着いた気持ちで授業に臨むことができるなど、読書の学校教育に果たす役割の重要性を訴え、肯定的な意見が増えるよう、改善点や方策について検討していく。 タブレットの週末の持ち帰りを習慣づけ、課題を発信し、取り組ませている。
	1) 習熟度別授業や少人数制授業により多様な進路希望に対応 B-3	1)-1 授業内容の研究(教科会・公開授業) 各学期1回	1)-1 当初予定が変更となったが、基本研修での研究授業では教科を超えて教員の参加がみられた。また、今年度はICT元年ということもあり、研究授業は7回実施された。			
	2) 生徒の興味・関心・適性に応じた科目を選択できる単位制教育課程 B-1	2) 授業評価アンケートで生徒の満足度 80%以上	2) すべての教科で生徒の満足度80%以上となっている。最低でも83.9%、最高で96.2%の教科もあった。生徒の興味・関心・適性に応じた科目選択ができた。			
	3) 高い志と明確な目的意識を持って自ら学ぶ意欲と行動力を育成 A-1 C-1	3) 3学年で1回、1.2学年で2回の進路ガイダンスを実施	3) 6月に全学年対象に3月に1、2年生を対象に、業者を仲介して、進路ガイダンスを実施した。生徒の進路意識高揚となった。			
	4) 早期に勤労観や職業観の育成を図る B-2	4) 1学年で、インターンシップを実施	4) キャリア教育の充実のため、準備を進めていたが、コロナウイルス感染拡大防止のため、今年度は中止となった。			
	5) 文学に親しみ、心豊かな人間を育てる「朝の読書」を実施 B-5	5) 朝のSHR前の10分間実施 生徒にとって有意義な時間になっている。	5) 朝のSHR前に10分間の朝読を予定通り実施した。			
	6) 情報通信技術の活用能力を高め、社会に貢献しようとする公共心を育成 A-3	6) タブレットの持ち帰りを安全・安心に行える環境づくり 端末の設定 100%	6) コロナウイルス感染拡大防止のため、分散登校実施時に全学年タブレットの持ち帰りを実施。うまく接続できない端末もあった。			
	(下位組織レベル)	活動計画	活動計画の実施状況			
	① 学び直し教材「smile」の活用	① 1学年の国数英で学び直し教材を活用し、基礎基本事項の徹底をはかる。	① 「smile」を活用し、中学校段階における基礎的な学習内容を復習することができた。			
	② 授業評価結果の活用	② 生徒を対象に授業評価アンケートを年1〜2回実施する。教科会を開き、参加意欲の低い原因を探り改善に努める。	② 生徒を対象に授業評価アンケートを11月に実施した。その結果をもとに各教科において検討会を開いて、反省点や今後の課題について話し合い、具体的方策について協議・研究を深めた。			
③ 進路相談の機会の増加	③ 設定された面談期間以外にも、放課後等にも進路の個別相談に応じる。	③ 主に1、2学期は3年生に対して、3学期は2年生に対して就職・進学共に個別の進路面談を実施した。				

<p>④ 進路別の補習授業、意欲ある生徒のための放課後個別学習指導を実施</p> <p>⑤ 生徒、保護者の希望進路の実現</p> <p>⑥ 「キャリアパスポート」の活用</p> <p>⑦ GIGAスクール構想の推進</p> <p>⑧ 校外の講座等の参加、各種資格取得</p> <p>⑨ 学習時間の確保</p> <p>⑩ 図書の貸し出しの推進</p> <p>⑪ 「エンカル消費」の発信普及</p>	<p>④ 補習の出席率6割以上を目指す。</p> <p>⑤ 学校行事や面談で直接、または進路だより『ONE'S WAY』や『進路の葉』などを通して、進路に関する情報を伝える。PTAの行事として、県内外の大学・専門学校・企業等を訪問して研修を行い、家庭教育の充実を努める。奨学金の案内や申し込みについて丁寧に説明をする。</p> <p>⑥ 様々な体験活動を記録し蓄積することにより、キャリア教育の充実を図る。</p> <p>⑦ 一人一台のタブレットを使って、新時代のハイブリッド型の「学び」を推進するなど、オンライン学習に向けて各科で研究する。</p> <p>⑧ 数検・英検・漢検などの資格試験について、可能な限り校内で実施し、受験者数・取得者数を増加させる。更に学修認定を行うことで、生徒の動機付けを一層高める。</p> <p>⑨ 学校行事の精選・見直しにより授業時間の増加を目指す。また、チャレンジタイム(テスト前の自主学習時間)や週末課題の実施等で学習時間を確保する。</p> <p>⑩ 入学時のオリエンテーションや読書マラソン等で、読書を促す。「図書館便り」を発行し、本の紹介をする。一人当たりの貸出数6冊以上。</p> <p>⑪ エンカルクラブを中心に校内外での啓発活動を行う。エンカル通信を発行する。</p>	<p>④ 補習を登録した生徒については8割程度出席することができた。</p> <p>⑤ 進路だより『ONE'S WAY』を年間5回、『進路の葉』を1回発行した。感染症予防のため3学年の進路説明会やPTAの行事のほとんどが中止されたため、ホームページや紙面で情報を発信につとめた。奨学金の案内や申し込みについても丁寧に説明をした。</p> <p>⑥ 学期の単位でキャリアパスポートを記入し、活動記録を残した。</p> <p>⑦ 病気のため登校できない生徒や濃厚接触者に対して、一人一台のタブレットを活用してオンライン授業を実施した。</p> <p>⑧ 英検については校内準会場受験が定着し、受験者数も増加している。2級合格者を2名出すなど、着実に成果が上がっていると言える。各種検定での資格を学修認定することで、生徒の動機付けに加え、学業に対する満足度も高めることができた。</p> <p>⑨ 考査発表後、6限で終了する日は「チャレンジタイム」を設定し、学習時間の確保に充てた。また、週末課題を与え、家庭学習の充実を図った。課題等未提出者については、提出状況のチェックを確実にし、HR担任との連携を密にして提出率をアップさせた。</p> <p>⑩ 入学時のオリエンテーションおよび国語科と協力した図書館オリエンテーションで図書館の利用の仕方を説明した。「図書館便り」は8月を除き毎月発行し、本の紹介を行った。一人当たりの貸出数6冊以上を達成した。</p> <p>⑪ 本年度は校外での啓発活動はほとんど実施できていないが、身近なところでエンカルを学ぶことができるということを再認識できた。また、エンカル通信を発行し、本校の取組や活動の報告を行った。</p>	<p>(9)入試環境を取り巻く動きも厳しくなっていることから、早期から目的意識高揚を図るためのキャリア教育と、基礎学力充実のための早期・放課後補習に主体的・意欲的に向き合うよう促した。</p> <p>(10)キャリアパスポートを記入し、これまでの取組を振り返ることにより、新たな学習や生活への意欲につながった。</p> <p>(11) ID・PWの入力ミスや家庭のWiFiにつながらないなど、学校と家庭のネットワークの切り替えがうまくいかない、などのトラブルを確認し、対応した。検定については、情報処理、文書デザイン、日本語ワープロ検定にも多くの生徒がチャレンジした。</p> <p>(12) テスト前の自主学習時間を有効に活用させた。週末課題は「全員がする」をモットーに学年でチェック体制を強化した。</p> <p>(13) 「図書館便り」は毎月、「エンカル通信」は学期に一度発行した。今年度からホームページにもアップした。</p>	<p>進路だより『ONE'S WAY』をホームページ上で公開してもらうことで、課題テストの範囲や日程をいつでも確認しやすくなった。</p> <p>将来の(在り方)生き方を考えたりするキャリア教育は重要だと思います。</p> <p>ICTは機器の不具合もあるので今後のハイブリッド授業に備えて整備を図ってほしい。</p> <p>いろんな検定に、積極的にチャレンジしていくことはいいことだと思うので、今後も続けて欲しい。</p> <p>テスト前の自主学習時間や週末課題の実施等で学習時間を確保できるように工夫されています。</p> <p>学校で発行している文書についてHPでいつでも見れるのは安心感があります。</p>	<p>補習を完全希望制にし、さらなる出席率の向上と補習内容の充実に取り組んでいく。</p> <p>進路だより『ONE'S WAY』や『進路の葉』などを通して、進路に関する情報をホームページ上で伝えていく。</p> <p>次年度は体験的活動をより増やし、eポートフォリオで記録する試みを始めたい。</p> <p>引き続き検定・資格試験等の受験を促し、進路選択の幅を広げていく。</p> <p>チャレンジタイム(テスト前の自主学習時間)がより有効な時間になるよう取り組んでいく。</p> <p>「図書館便り」、「保健便り」、「エンカル通信」等をHPにアップしていく。</p>
<p>特別活動・人権教育の充実</p> <p>1) 行事や部活動を通して連帯感や奉仕の精神に基づく実践的社会的性を育成 A-4</p> <p>2) 豊かな人権感覚を持った調和のとれた人間性と自主共同の精神をかん養 A-2</p> <p>(下位組織レベル)</p> <p>① 不登校傾向の生徒の学びの場の保障</p>	<p>評価指標</p> <p>1) 生徒会活動や部活動で役割や責任を果たすことで、生徒会や部の一員としての意識を高め、支え合いながら、部活動加入率 70%以上</p> <p>2) 人権学習HRを各学年6回実施</p> <p>活動計画</p> <p>① 本人の希望を聞き、家庭訪問時の授業プリントの持参や別室登校の措置をとる。スクールカウンセラーや校外の相談機関、医療機関等と連携をとり、学年会、教育相談課会等で共通理解を図る。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>1) 自発的な生徒会活動、部活動による個性の伸長が見られた。役割や責任を認識し、生徒会や部の一員としての自覚を高め、よりよい人間関係を深めながら、活発化できている。 部活動加入率 75%</p> <p>2) 人権学習HRを各学年とも7回実施することができた。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>① 学年会等で不登校傾向の生徒の現状や対応への共通理解を図り、家庭訪問や保護者との面談等で本人の希望を聞き対応した。スクールカウンセラーと連携して対応し、別室登校は1名であった。</p>	<p>総合評価 (評定) A</p> <p>(所見) 生徒会活動はこれまで以上に自発的に取り組まれ、学校の活性化に寄与している。人権教育はこれまでの同和教育の成果を引き継ぐとともに、新たな内容や方法の創造に努めた。教育相談については、生徒への支援活動と職員間の情報交換、職員研修により共通理解を図った。</p>	<p>トレーニングルームの充実により部活動も活発になり成績もよくなってきているように思います。その辺の評価が、ここ数年の入学希望者増につながっていると思う。</p> <p>人権教育の充実が著しくすばらしいと考える。</p> <p>施設・設備や指導者などソフト・ハード面の充実・向上も必要と思う。</p> <p>人権学習HRが各学年ごとに7回実施できたのは大きな成果であると感じました。人間力を高めるためにも必要なことと考えます。</p>	<p>人間関係や自己表現がうまく構築できない生徒が増加しており、コミュニケーション能力を高める指導を強化していく。</p> <p>人権尊重の価値観、態度を育て、行動へと向かわせるための人権教育を推進していく。</p> <p>生徒個人のもつ悩みや困難の解決を援助し、学校生活に適用できるよう教育相談体制を整えていく。</p>
<p>広報の充実ならびに地域への貢献</p> <p>1) 日々の活動の成果を地域や保護者に知ってもらうためのHPの充実</p> <p>2) 地域に愛着を持ち、様々な課題の解決に立ち向かう実践力を育成するため、清掃活動や「お接待」などのボランティア活動に積極的に参加 A-5 B-4</p>	<p>評価指標</p> <p>1)-1 学校案内の内容を最新のものに改定し、魅力ある紙面を通じて、中学生の進路選択の参考にしてもらう。近隣中学校への配布・説明 100%</p> <p>1)-2 HPの更新をこまめに行い、新着情報を充実させる。 更新回数 年100回</p> <p>2) 通学路清掃奉仕(各学期1回)や「お接待」などのボランティアへの参加、地域の行事への参加を募り、様子を広報する。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>1)-1 学校案内は常に最新の情報を載せ、魅力ある紙面に仕上げた。それを利用して8校の中学校で進路説明を行い、中学生の進路選択の参考にしてもらうことができた。また、HPIにPR用スライド動画をアップし、好評を得た。</p> <p>1)-2 各課、部活動の更新のみならず、生徒・保護者への連絡や中学生向けに、HPで新着情報を充実させた。年108回更新。</p> <p>2) 新型コロナの影響で「お接待」などのボランティアや地域交流行事への参加は難しかった。通学路清掃は12月に実施した。</p>	<p>総合評価 (評定) B</p> <p>(所見) (1)HPは連絡・学校紹介機能や部活動、発行物などを更新した。 (2)今年度は地域交流行事は中止になったが、12月の通学路清掃で地域に貢献した。</p>	<p>今年度は、本校を志望し、受験した生徒が多かったです。この総括評価を拝見し、その理由がわかりました。本校のよさをあらゆる機会をたもたえて発信していきたいと思っています。</p> <p>ボランティア、清掃活動などの地域活動はかなり根づいてきていいことだと思う。</p>	<p>学校案内に最新の情報を載せ、8校の中学校に進路説明会を通じて本校の魅力を発信していきたい。</p> <p>基本ソフト更新に合わせて、見やすい記事を作成し、より親しみやすい広報に努める。</p> <p>コロナ禍に即した地域参加のあり方を検討し推進する。</p>
<p>働き方改革の推進</p> <p>1) ICTの更なる活用</p> <p>2) 学校及び教職員が担う業務の明確化・適正化</p>	<p>評価指標</p> <p>1)-1 勤務時間の客観的な把握の徹底により在校等時間の縮減を図る。 昨年度比 10%減</p> <p>1)-2 さくら連絡網による学校からの連絡システム化。 生徒の登録率 100% 保護者の登録率 80%以上</p> <p>2)-1 学校行事等の精選や内容、各会議の見直し、準備の簡素化等を行う。</p> <p>2)-2 部活動の運営適正化により、生徒と向き合う時間を確保する。 平日3時間以内、休日4時間以内</p> <p>2)-3 留守番電話の時間帯設定。 午前7時30分～午後6時</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>1)-1 1月毎に時間外勤務が45時間を超える職員について調べ、職員健康管理医から指導助言をもらい、対応。昨年度比15%減となった。</p> <p>1)-2 さくら連絡網により、新型コロナウイルス感染拡大防止に関する緊急連絡を実施した。生徒の登録率100%、保護者の登録率約60%だった。</p> <p>2)-1 学校行事は常に見直しを行い、必要なもののみを実施した。会議に関しても、慣例化しているものを再度見直し、不必要と判断できる場合は中止した。</p> <p>2)-2 部活動の運営適正化により、生徒と向き合う時間を確保できた。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、さらに活動時間が抑えられることになった。</p> <p>2)-3 平日の留守番電話の時間帯設定を文書とHPで保護者に連絡した。また、土日の対応として緊急連絡用の携帯電話を設置した。</p>	<p>総合評価 (評定) B</p> <p>(所見) (1)さくら連絡網により、新型コロナウイルスによる休校、分散登校に関する緊急連絡を実施した。 (2)ICTを活用して、学校行事や会議を効率的に運営できるようにしていく。 (3)部活動の活動時間を明確にし、生徒と向き合う時間の確保ができた。 (4)平日の留守番電話の時間帯設定や休日の公務用携帯電話の導入により、公私の切り替えが可能になった。</p>	<p>PTA活動についても、横のつながりを強めるため、決められた日程で実施するのではなく、感染者が少ない時期に実施するとか、オンラインで実施するなど検討してほしい。</p> <p>今後も部活動の活動時間を明確にしてほしいと思います。</p> <p>緊急連絡体制がしっかりできていると思います。</p>	<p>在校等時間の縮減を図るため、月毎に時間外勤務が45時間を超える職員について相談に乗っていききたい。</p> <p>緊急連絡システムの保護者登録率を100%にする。</p> <p>PTA活動について、開催が難しい場合はオンラインでの実施を検討していきたい。</p> <p>部活動の運営適正化していく。</p> <p>休日、夜間の対応として緊急連絡用の携帯電話番号を連絡する。</p>